

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和7年4月3日(2025.4.3)

【公開番号】特開2022-164600(P2022-164600A)

【公開日】令和4年10月27日(2022.10.27)

【年通号数】公開公報(特許)2022-198

【出願番号】特願2022-64629(P2022-64629)

【国際特許分類】

A 01N 53/06(2006.01)

10

A 01P 7/04(2006.01)

A 01P 7/02(2006.01)

A 01M 1/20(2006.01)

【F I】

A 01N 53/06 110

A 01P 7/04

A 01P 7/02

A 01M 1/20 A

20

【手続補正書】

【提出日】令和7年3月26日(2025.3.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

—メトフルトリン、トランスフルトリン、及びプロフルトリンからなる群より選択される1種又は2種以上を有効成分として含有する、室内匍匐害虫防除剤。

30

【請求項2】

—メトフルトリン及び/又はトランスフルトリンを有効成分として含有する、室内匍匐害虫防除剤。

【請求項3】

—防除がノックダウン効果に依拠する、請求項1又は2に記載の室内匍匐害虫防除剤。

【請求項4】

—前記有効成分を20~30w/v%含有するエアゾール原液と噴射剤とを、0.4mL定量バルブ及びボタンを備えたエアゾール容器に、前記エアゾール原液と前記噴射剤との容量比率が3:7~4:6となるように封入した定量噴射型エアゾール剤を調製し、

—閉めきった25m³の部屋に室内匍匐害虫を放ち、当該部屋の中央で前記定量噴射型エアゾール剤を0.4mLずつ方向を変えながら4回噴霧し、30分間放置した後、当該室内匍匐害虫に対するKT₅₀値が30分以下である請求項3に記載の室内匍匐害虫防除剤

40

【請求項5】

—防除が致死効果に依拠する、請求項1又は2に記載の室内匍匐害虫防除剤。

【請求項6】

—前記有効成分を20~30w/v%含有するエアゾール原液と噴射剤とを、0.4mL定量バルブ及びボタンを備えたエアゾール容器に、前記エアゾール原液と前記噴射剤との容量比率が3:7~4:6となるように封入した定量噴射型エアゾール剤を調製し、

—閉めきった25m³の部屋に室内匍匐害虫を放ち、当該部屋の中央で前記定量噴射型エ

50

アゾール剤を0.4mLずつ方向を変えながら4回噴霧し、30分間放置した後、当該室内匍匐害虫を別の部屋に移し、24時間経過後の当該室内匍匐害虫の致死率が80%以上である請求項5に記載の室内匍匐害虫防除剤。

【請求項7】

防除がフラッシング効果に依拠する、請求項1又は2に記載の室内匍匐害虫防除剤。

【請求項8】

請求項3に記載の室内匍匐害虫防除剤を室内匍匐害虫又は室内匍匐害虫の生息場所に施用する、室内匍匐害虫防除方法。

【請求項9】

請求項5に記載の室内匍匐害虫防除剤を室内匍匐害虫又は室内匍匐害虫の生息場所に施用する、室内匍匐害虫防除方法。 10

【請求項10】

請求項7に記載の室内匍匐害虫防除剤を室内匍匐害虫又は室内匍匐害虫の生息場所に施用する、室内匍匐害虫防除方法。

【請求項11】

空間処理により前記室内匍匐害虫を防除する、請求項8に記載の室内匍匐害虫防除方法。

【請求項12】

空間処理により前記室内匍匐害虫を防除する、請求項9に記載の室内匍匐害虫防除方法。

【請求項13】

空間処理により前記室内匍匐害虫を防除する、請求項10に記載の室内匍匐害虫防除方法。 20